

Lesson20

不定詞／後で後悔するだけの衝動買いは、やめます。

I've decided not to buy on impulse only to regret it.

不定詞の基本的な構成は「to+動詞の原形」です。不定詞は動名詞のように主語、目的語、補語として使ったり、名詞、動詞、文などを修飾したりします。また、動詞と同じように補語、目的語、追加情報に相当する語（句）を不定詞の後ろにつけることができます。完了形や受動態の不定詞もあります。I've decided not to buy on impulse only to regret it. 「後で後悔するだけの衝動買いは、やめます。」では2つの異なる用法の不定詞が使われています。

このレッスンを受講することで不定詞について理解できます。

■ Topics

不定詞/ I've decided not to buy on impulse only to regret it.

Topic1 不定詞の用法

- 名詞的用法
- 形容詞的用法
- 副詞的用法

Topic2 不定詞の注意点

- 否定
- 意味上の主語
- 受動態の不定詞
- 完了形の不定詞
- too ... to ...の構文
- 原形不定詞
- 動詞の後ろに不定詞と動名詞の両方をとる動詞

Wrap-up

DVD 版では練習問題の解説も行います。



I've decided not to buy on impulse only to regret it.

■ Topic1

不定詞の用法

不定詞は **to** に動詞の原形をつけた形のことです。不定詞の用法には主語、目的語、補語などとして使う「名詞的用法」、名詞を修飾する「形容詞的用法」、動詞や文を修飾する「副詞的用法」があります。動詞と同じように、補語、目的語、追加情報に相当する語（句）を不定詞の後ろにつけて不定詞句を構成することができます。

●名詞的用法：

主語、目的語、補語などとして使うことができます。基本的に名詞的用法は「～すること」と訳します。

・不定詞を主語にした場合

To own a car is costly. 「車を持つことは費用がかかります。」

To own a car 「車を持つこと」が**主語**となっています。

・不定詞を目的語にした場合

Do you want to see my collection? 「私のコレクションを見たいですか？」

to see my collection 「私のコレクションを見ること」が **want** 「欲しい」の目的語になっています。

・不定詞を補語にした場合

Our dream is to hold a concert with musicians from all over the world.

「私達の夢は世界中の音楽家達と共にコンサートを開くことです。」

to hold a concert 「コンサートを開くこと」が**補語**となっています。

●形容詞的用法：

名詞を修飾することができます。形容詞的用法は「～するための、～するような」などと訳します。

Sorry, I don't have an umbrella to lend you.

「ごめんね。あなたに貸してあげるカサはないんだ。」

to lend you 「あなたに貸すための、あなたに貸せるような」は **umbrella** 「傘」(名詞) を修飾しています。

Could you give me something to eat? 「何か食べるものくださいますか？」

to eat 「食べられる」は something 「何か」(名詞)を修飾しています。

●副詞的用法：目的、結果、原因・根拠を表します。

- ・目的：動作などの目的を示し、「～するために」などと訳します。

We are studying hard to take a good score on the test.

「その試験で良い点をとるために、私達は一生懸命勉強しています。」

We are studying hard 「私達は一生懸命勉強しています。」の後ろに、to take a good score on the test 「そのテストで良い点を取るために」という目的を表す追加情報がついています。

- ・結果：何かを行った結果を表現し、「(、,)して、～する」などと訳します。

My daughter grew up to be a physician.

「私の娘は成長して内科医になった。」

My daughter grew up 「私の娘は成長して」、その結果 to be a physician 「内科医になった」ということを意味しています。

I rushed to the office only to find it was a holiday.

「私は事務所まで急いで行きましたが、休日だということが分かっただけでした。」→「私は事務所まで急いで行ったら、休日だったことが分かりました。」

I rushed to the office 「私は事務所まで急いで行きました」という動作をしたことで to find it was a holiday 「その日が休日だったことが分かった」という結果を意味しています。

注意：only to ～「結局～しただけだった」という意味の熟語です。

- ・原因：感情などの原因の意味になり「～して」などと訳すことが多いです。

We were shocked to find out the truth. 「私達は真実を知ってショックを受けた。」

to find out the truth 「真実を知って」は We were shocked. 「私たちはショックを受けた」の原因を表しています。

- ・根拠：判断の根拠を示します。「～するとは、～するなんて」という意味になることが多いです。

It was nice of you to drive me home. 「私を車で送ってくれるなんてあなたは親切ね。」

to drive me home 「私を家まで車で送ってくれるなんて」が it was nice of you 「あなたは親

切です」の**根拠**となっています。

■ Topic2

不定詞の注意点

不定詞も普通の**動詞**と同様、**否定**の意味を加えたり、**過去**のことを表現したりすることができます。

● 否定

不定詞に否定の意味を加える時は、**不定詞**の前に**否定**の **not** をつけ「**not to + 動詞の原形**」という構成にします。

I have decided not to eat ice cream until I take the test.

「私はそのテストを受けるまでアイスクリームは食べないことに決めました。」

● 意味上の主語

不定詞の意味する**動作**や**状態**の**主語**が文の主語と異なる場合や、はっきりと主語を示したい場合、**不定詞**に**主語**をつけることができます。**不定詞**につける**主語**は**意味上の主語**と呼ばれ、基本的には**不定詞**の前に「**for + 名詞**」をつけて示します。

It was so difficult for me to keep my concentration for two hours.

「私にとって2時間集中を保つことはとても難しかったです。」

for me の **me**「私」が **to keep my concentration for two hours** 「2時間集中を保つこと」の意味上の主語となります。

注意：人の性質を表す形容詞を使って人に対する**評価**を述べる時、**意味上の主語**は「**of + 人**」という形で示します。この場合、「**it is** 形容詞 **of** 人 **to** 動詞の原形」という構文となり、**人**が**不定詞**の**意味上の主語**となっています。例えば、**It is nice of you to drive me home.** 「私を車で送ってくれるなんてあなたは親切ね。」では **you** が **to drive me home** 「私を家まで車で送ること」の**意味上の主語**となっています。

● 受動態の不定詞

「**to be + 過去分詞**」で**不定詞**に**受け身**の意味を加えることができます。

I learned a lot of things in school just to be forgotten.

「私は学校で多くのことを学びましたが、忘れてしまいました。」

to be forgotten 「忘れられてしまう」と**不定詞**の **to** の後ろの構成が**受動態**になっています。

●完了形の不定詞

「to have+過去分詞」で、**述語動詞**が表すことよりも、**不定詞**の内容が**前のこと**であることを示し、**過去**や**完了**の意味になります。

Ms. Lance is said to have accepted their offer.

「ランスさんは彼らの申し出に応じたと言われています。」

to have accepted their offer 「彼らの申し出に応じたこと」は**完了形**の **have** により構成されています。**be said to** ～で「～すると言われている」の意味になります。**be said to have accepted** ～とすると「～に応じたと言われている」という意味になります。

●too ... to ... の構文

「**too** 形容詞 **to** 動詞の原形」で「動詞するには形容詞すぎる」という構文です。この構文にも不定詞が使われているので注意してください。

This notebook computer is too heavy for me to carry.

「このノートパソコンは私にとって持ち歩くのには重過ぎます。」

●原形不定詞

不定詞には通常 **to** が付きますが、**to** が付かない**不定詞**も存在します。そのような**不定詞**のことを**原形不定詞**と呼びます。**原形不定詞**は特殊な構文の中で使用されます。**使役動詞**や**知覚動詞**では**原形不定詞**（**動詞の原形**のみの形）を使うことがあります。

使役動詞：**使役動詞**には **make** 「O に～させる」、**let** 「O に～させる／～させてやる／～することを許可する」、**have** 「O に～してもらう」などがあり「**使役動詞+目的語(O)+動詞の原形**」という構成で**原形不定詞**を使います。例えば、「**make+ O+動詞の原形**」であれば「O に～させる」という意味になります。

Please let me use your phone. 「あなたの電話を使わせてください。」

use your phone には**不定詞**の **to** はついていませんが、これも不定詞句です。

知覚動詞：**知覚動詞**には **see** 「見る」、**hear** 「聞く」、**feel** 「感じる」などがあり「**知覚動詞+目的語(O)+動詞の原形**」という構成で**原形不定詞**を使います。例えば、「**hear +O+動詞の原形**」であれば「O が～するのを聞く」という意味になります。

I saw Mr. Reed cross the street. 「私はリードさんがその道を渡るのを見ました。」

cross the street 「その道を渡る」には不定詞の **to** はついていませんが、これも不定詞句です。

●動詞の後ろに不定詞と動名詞の両方をとる動詞

動詞の中には「動詞＋不定詞」と「動詞＋動名詞」の両方の形をとるけれども、それぞれ意味が異なるものがあります。このタイプの動詞には **remember, forget, stop** があります。なお、おおまかな原則として、**不定詞**は「これからすること（**未来志向**）」、**動名詞**は「すでに行ったこと（**過去志向**）」という法則があります。この点を意識しながら、以下の例文の意味の違いを比べてみると分かりやすいです。

・ remember

動詞	意味
remember to ~	「~することを覚えている、~することを忘れない」
remember -ing	「~したことを覚えている」

I must remember to see Sue today. 「今日、スーに会うことを忘れてはならない。」

不定詞 : **remember to see** 「会うことを忘れない」(未来志向)

I remember seeing Sue yesterday. 「私は昨日スーに会ったのを覚えています。」

動名詞 : **remember seeing** 「会ったことを覚えている」(過去志向)

・ forget

動詞	意味
forget to ~	「~し忘れる」
forget -ing	「~したことを忘れる」

Don't forget to call John today. 「今日、ジョンに電話するのを忘れないように。」

不定詞 : **forget to call** 「電話することを忘れる」(未来志向)

I forgot calling John this morning. 「今朝ジョンに電話したのを忘れました。」

動名詞 : **forget calling** 「電話したのを忘れる」(過去志向)

・ stop

動詞	意味
stop to ~	「~するために立ち止まる、立ち止まって~する」
stop -ing	「~することをやめる」

I stopped to smoke. 「煙草を吸うために立ち止まりました。」

不定詞 : **stop to smoke** 「煙草を吸うために立ち止まる」(未来志向)

I stopped smoking. 「禁煙しました。」

動名詞 : **stop smoking** 「煙草を吸うのをやめる」(過去志向)

注意：動詞の後ろに**不定詞**と**動名詞**のどちらを付けても意味があまり変わらない動詞もあります。

I like to talk with people of other cultures. 「私は異文化の人達と話すのが好きです。」

I like talking with people of other cultures. 「私は異文化の人達と話すのが好きです。」

このように、**like** は**不定詞**と**動名詞**の両方の形をとることができ、意味もほぼ同じです。他にも、**begin**「始める」、**continue**「続ける」、**cease**「やめる」などがあります。

スコアアップ!

(DVD 版のみ収録)



例題：The board members have decided _____ a new product next quarter.

- a. to launch
- b. launching

a. to launch が正解。**decide** の目的語には不定詞をつけますが動名詞はつけられません。このように、後ろに不定詞しかとらない動詞がポイントとなる問題が出題されることもあります。

●後ろに不定詞を付ける動詞

動詞	意味	動詞	意味
afford to ~	「～する余裕がある」	learn to ~	「～することを学ぶ」
agree to ~	「～することに合意する」	manage to ~	「なんとか～する」
decide to ~	「～することに決める」	pretend to ~	「～するふりをする」
fail to ~	「～し損なう」	promise to ~	「～する約束をする」
happen to ~	「偶然～する」	refuse to ~	「～することを断る」
hesitate to ~	「～することをためらう」	tend to ~	「～する傾向がある」
hope to ~	「～することを希望する」	want to ~	「～することを欲する」

不定詞は未来志向：一般的な傾向として不定詞は「これからすること」を意味します。例えば、**promise to do** も「(これから何かを) することを約束する」という意味になります。このようにこれから行うことを意味する場合に不定詞を使います。

The board members have decided to launch a new product next quarter.

「役員達は次の4半期に新しい商品の販売を開始することを決定しました。」

talent show というものがあります。これを日本語に訳すと「才能発表会」のようになります。学校の文化祭やお祭りなどの行事の際に行う **talent** (才能) を発表する **show** (会) のことを意味します。「スター誕生」のようなスターを発掘するための番組も **talent show** の一種です。英国には **Britain's Got Talent**. という「スター誕生」に似た番組があり、いろいろな才能を持った出場者が登場して歌や芸を披露します。このような番組に出て「歌手になるのが夢です。」と言いたい時は、**My dream is to be a singer.** 「私の夢は歌手になることです。」と言うのが適切です。不定詞は未来志向なので、**to be a singer** は「歌手になること」という意味になるからです。動名詞を使い **being a singer** とすると「歌手であること」という意味になり、これから歌手になるという意味にはなりません。

ある時、**Britain's Got Talent** に **Susan Boyle** という中年の女性がでてきました。ひどい話ですが、彼女はあまり歌がうまそうに見えなかったので、彼女がステージに出てきた時は客席や審査員達の間には、「また下手な歌を聴かされるのか」といった感じのうんざりとしたムードが漂っていました。でも、彼女が歌い出すとみんなびっくりした表情で彼女の歌に聴き入りました。そして歌い終わった時は彼女は大きな喝采をうけました。

よろしかったら、皆さんも挑戦してみてください。その際、「歌手になるのが夢です。」と言いたい時は、**My dream is to be a singer.** というので注意してください。

それでは **Don't forget to review today's lesson.** 「今日の授業の復習を忘れないでくださいね。」

コーヒーブレイク (DVD 版のみ収録)

Wrap-up

- 不定詞には名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法のような使い方がある。
- 不定詞の意味上の主語を示すことができる。
- 不定詞に受動態や完了形をつけることもできる。



**I've decided not to buy on impulse
only to regret it.**

「後で後悔するだけの、衝動買いはやめます。」

主語(S) 代名詞	述語動詞(V) have + 過去分詞	目的語 不定詞	追加情報 1 前置詞句	追加情報 2 不定詞句
I 「私」	have decided 「決めました」	not to buy 「買わないこと」	on impulse [衝動で]	only to regret it [後悔するためだけに]

Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. Everyone wanted to _____ early.
a. leave
b. leaving
c. left
d. be left
2. The programmer worked very hard _____ the deadline.
a. to meet
b. to meeting
c. meet
d. met
3. Can I get something _____?
a. drink
b. drinking
c. to drink
d. to drinking

Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

1. It must be easy _____ with better ideas.
a. coming up for us
b. for us coming up
c. to come up for us
d. for us to come up
2. The man seemed _____ my name.
a. forgotten
b. forgetting
c. to be forgotten
d. to have forgotten
3. The man promised _____ me tomorrow.
a. call
b. to call
c. calling
d. for calling

Explanation - Practice

1. Everyone wanted to leave early. 「みんな早く帰りたかった。」

解説 : a. **leave** が答えです。不定詞の **to** の後ろなので動詞の原形を選びます。また、**leave early** とすると「早く去る、早く出発する」の意味になります。スコアアップで学習したように、**want** は後ろに不定詞を取る典型的な動詞です。そのため、直後の **to** は不定詞の **to** であり、その後ろには動詞の原形が来ると判断できます。

b. leaving (ing 形)、**c. left** (過去形・過去分詞) ですが、不定詞の **to** の後に動詞の **ing** 形や過去形・過去分詞をつけることはできません。**d. be left** は不定詞の **to** につけることは可能ですが、受身形となるので主語が過去分詞(**left**)の動作対象にならなくてはなりません。**leave** は「去る、出発する」という意味の自動詞または他動詞ですが、自動詞と考えた場合は受動態にはできません。自動詞は、「～を」というような動作対象を必要としません。そのため、動作対象が主語となる受動態の文にはなり得ないからです。**leave** が他動詞の場合、動作の対象となる目的語には場所をいれます(～から出発する)。しかし、この文には場所を示すものがありません。また、**leave** は **SVOC** 型の使い方で「目的語(**O**)を補語(**C**)のままにしておく」という意味もありますが、ここでは補語(**C**)に相当する語(句)がないので、この形に使い方もあてはまりません。

2. The programmer worked very hard to meet the deadline.

「そのプログラマーは締切に間に合わせるためにとっても一生懸命働きました。」

解説 : a. **to meet** が答えです。**to meet the deadline** 「締切に間に合わせるために」とすると、**work very hard** 「一生懸命働く」の目的を意味することができます。これはレッスンで学習したように、**目的**、結果、原因・根拠を示す、不定詞の**副詞的用法**の一つです。

b. to meeting (前置詞+ing 形) は前置詞の **to** に **meeting** がついています。しかし **work** は一般的に、「**work hard to** + 動詞の原形」という構成となるため、この選択肢は不適切です。**c. meet** (原形) や **d. met** (過去形・過去分詞) は動詞 **worked** の後ろにつけることはできません。

3. Can I get something to drink? 「何か飲むものをくれませんか。」

解説 : c. **to drink** が答えです。**something to drink** で「何か飲むもの」の意味になります。

something (名詞)を修飾するために後ろから動詞をつける場合は不定詞にする必要があります。このレッスンで学習したように、**名詞を修飾する形容詞的用法**の例です。「～するための、～するような」などと訳します。**a. drink** (原形)、**b. drinking** (ing 形)、**d. to drinking** (前置詞+ing 形) をつけることはできません。

Explanation - Homework

1. It must be easy for us to come up with better ideas.

「もっと良いアイデアを思いつくことは私達にとって簡単に違いありません。」

解説 : d. **for us to come up** が答えです。「**it is** 形容詞 **for** 人 **to** 動詞」で「人にとって～すること

は形容詞である。」という意味の構文です。ここの「**for** 人」で意味上の主語を表しています。この構文の **be** 動詞に **must** 「にちがいない」(助動詞) を付けた物ですが、助動詞がついても意味上の主語をつける位置に代わりはありません。なお、**come up with** で「思いつく」という意味があります。

a. coming up for us は語順に誤りがあります。また、**coming** (**ing** 形) ではなく不定詞に変える必要があります。**b. for us coming up** は後ろの **coming up** を **to come up** にする必要があります。

c. to come up for us は **to come up** と **for us** の語順に誤りがあります。

2. The man seemed to have forgotten my name. 「その男の人は私の名前を忘れたようだった。」

解説 : **d. to have forgotten** が答えです。「忘れたようだった」という意味にするためには完了形の不定詞を使います。

a. forgotten (過去分詞) を **seemed** の後ろにつけると受身形の意味になります。しかし、「私の名前」が「その男の人」を忘れる、というのは意味がおかしいです。また、完了形の **have** を前につける必要があります。**b. forgetting** (**ing** 形) は進行形の意味になりますが、**forget** は状態動詞なので進行形にしません(状態動詞についてはレッスン 14 参照)。**c. to be forgotten** は受身形の不定詞となっていますしかし、これも、「私の名前」が「その男の人」を忘れる、というのは意味がおかしいです。

3. The man promised to call me tomorrow. 「その男の人は明日私に電話すると約束しました。」

解説 : **b. to call** が答えです。**promise to call** 人で「人に電話する約束をする」の意味になります。

このレッスンのスコアアップで学習したように、**promise** の後ろに動詞をつける場合は不定詞にします。

promise には **to call** をセットで用いますから、**promise** の後ろに **a. call** (原形)、**c. calling** (動名詞)、**d. for calling** (前置詞 + **ing** 形) をつけることはできません。